

## 館長 就任の挨拶

2004年4月から新たに社会福祉法人「近江ちいろば会」の常務理事「館長」の職につくことになりました森口 茂です。私は、29年間松下電器産業株式会社で、主に営業畑を歩んでまいりました。縁あって、施設の責任者となりましたが、民間で養われた経験を生かし施設の存在価値を高め、利用者の方々や地域の皆様に喜んでいただけるように努力する所存ですので、以後よろしく願い申し上げます。少し、私なりの所感を述べさせていただきます。社会福祉法人「近江ちいろば会」はキリスト教の精神に基づいて95年9月にケアハウスを母体に設立されました。後宮俊夫氏、坂田幸作氏の懸命な御努力で、9年にわたり施設が運営されてきました。この地域になくてはならない施設としてここまでこられましたことは両氏の高い志と多くの方の祈りに支えられてきたものと感謝にたえません。その間に行政による措置の時代から、介護保険制度が2000年4月に導入され、ご利用者と施設は契約の関係になりました。施設の運営には何ら変化はないように見えますが、経営的には大きな変化が起きています。つまり、ご利用者は施設を自分で選ぶことができ、施設も選ばれる時代に入ったということです。今までは、さまざまな規制の恩恵にあずかり、生きてきましたが、規制がなくなったときに生き延びることができるのは、存在価値があり、真にご利用者本位の施設だと思われまます。選ばれるためには、ご利用者本位で価値あるケアをしなければなりません。そういう意味で、今こそ、経営理念の「人にしてほしいと思うことを、人にもしなさい」ルカによる福音書6章31節の御言葉を柱に理念経営、理念に基づいたケアをすすめることが大切だと思われまます。

これからの時代を、第二の創業と捉え、難局を乗り越えて参りたいと思います。何卒、皆様方のご支援の程、お願い申し上げます。

常務理事 館長 森口 茂

## 後宮館長・坂田施設長 ありがとうございました

「ビスガこうせい」の建設、そのための社会福祉法人「近江ちいろば会」の設立より10年、このほど現場責任者としての「館長」役を辞任しました。至らぬ者を助け、支え、導いてくださった多くの方に、改めて厚く感謝を捧げます。いろいろな思い出や経過を今までの「ビスガからの風」に書かせていただきました。今回辞任に当たって、この機会を与えられて根本にあった思いの移り変わりを、書かせていただきます。

京都市伏見区桃山でキリスト教会の牧師、同時に教会がしていた保育園の園長をしていました。この時、いろいろなことに関わりを持った高齢の方のさまざまな問題に触れました。大都市の住宅地域で、殆ど核所帯である中産階級の高齢者の一番の問題は当時の社会では行き所がないということでした。老後を過ごすべき場所というか、「終の住処」がないということでした。教会では、少なくとも信徒の該当者の「終の住処」を用意できないかを考えました。当時の教会の資源（財的、人的）には限界があって進めませんでした。厚生省では老人福祉施設の新しいタイプとして、軽費老人ホームの一つとしてケアハウスを創設したので、この創設を検討しましたが、土地の自己所有が条件であったので京都市では無理でした。たまたま滋賀県甲西町に安い土地を紹介され、ここでケアハウスを核に老人福祉事業を開設することになりました。ケアハウスは制度的には自立して生活できる方の施設ですが、キリスト教精神で互いに助け合っていくなら「終の住処」とできると思いました。しかし、残念ながらある種の「痴呆」が生じた方はケアハウスでの集団生活が合わず他の施設に変わっていただくはなりません。このための施設を考えている中で、紆余曲折の中でグループホームの建設になりました。この折衝の半ばで介護保険制度への移行となり、グループホームもケアハウスも経過施設の性格を強くし、当初の目標であった「終の住処」としての運営は困難になりました。今後の大きな課題ではありますが、見直しはもてないまま、あとを託さざるを得なくなりました。

後宮 俊夫

## メモリーズ・オブ・「ビスガこうせい」

坂田 幸作

雑木林の丘をブルドーザーが削る。ジェットハンマーがパイルを打つ……。私の好きな光景だ。「保安林解除」で散々苦労したからではない、育った環境のせいだ。20年前（1972年）の「世光教会全面改築」の経験が生かされ、至難と思える事柄をクリアする力となった。それらを考えるとき、私自身の能力を超えた力の存在に気づかされる。「保安林解除」「法人認可」「借入金申請」等の得意とする分野の仕事ではなかったが、出来ないことではなく時間をかけて何とか決着がついた。中には補助金の「前倒し」などという事態にも対応することが出来た。建築現場は私にとって居心地のよい所でもあり、出来上がっていく様を見ることは、“作ること”の楽しさでもあった。しかし、事業開始となると人のかかわること、これが苦手だった。人は物と違って私の思うとおりに動かない。それぞれに動く。厄介なことだった。疲れきりながら歳月は過ぎた。

一つ一つを語れば紙面は尽きない。でも8年半に及び「ビスガ」の歩みの中で、15人もの人の“終のすみか”となりえたことは大きな声で叫ぶに値すると思う。勿論、私一人の力ではなく、職員をはじめ入居者や背後の祈りに支えられてのことでもある。創業者（後宮牧師）の意志が存続されつつ、人間の大事な（最期）を助ける業に邁進されることを望みつつ……。

完

「主の山に備えあり」（創 22・14）



## 近江ちいろば会の事業紹介

### ケアハウス ビスガこうせい

ここ菩提寺に、ケアハウス・ビスガこうせいが開設して、9年を迎えようとしています。開設1年目から、お住まいになっている方の多くが、今もお元気で自立した生活を送ってられる事は我々スタッフにとって大きな励みです。

ケアハウスでの生活は、炊事以外は自立が原則と言われています。・・とは言うもののこちらの生活を重ねる中で、3年前・5年前に出来ていた事が、徐々に難しくなるのは当たり前の事、そうした時には法人内に併設されたヘルパーステーションからヘルパーの応援や、地域の方との交流も出来るデイサービスセンターをご利用頂く事で、いつまでも安心して生活出来る環境を提供しています。

ビスガこうせいのスタッフは、ここにお住まいの皆様が、いつも主人公となって生活していただく為、背後からのお手伝いを致します。そしてお困りごとは、ご遠慮なくお伝え下さい。無力ですがあなたと共に考えこれからもあなたと共に生活します。

所長 中原 基



食堂の風景

## ぼだいじ デイサービスセンター

要支援・要介護認定を受けた方を対象に  
食事や入浴、また個々にあった  
レクリエーションを日帰りでを行います。  
専用車による送り迎えもいたします。



デイサービスでは、一人一人に生きがいがあるサービスを目指しております。

高齢とともに、これまで積み上げてきたものが少しずつ減っていきます。そういった喪失していく中において、個人の尊厳を守り、人格を尊重して、最後までその人らしく生きられるように努めております。

そのため、お世話するのではなく、送迎・入浴・食事・余暇活動を通して、ご本人が決定して自立（自律）出来る“支える”介護に努めております。又、痴呆介護にも力を入れ、限られた時間・限られた中でも、ご本人・ご家族と問題の共有に努め、周辺症状・介護の軽減に努めております。

所長 芦田 泰俊



## グループホーム ぼだいじ

痴呆対応型共同生活介護

「グループホームぼだいじ」も、開所して3年目を迎えることが出来ました。これもご利用者様、ご家族様、グループホームを支援してくださる全ての方々の御力と感謝しております。



いろいろの間

昨年も、お花見、イチゴ狩り、ビスガこうせいと合同の夏祭り、温泉行き、御餅つき、自治会の方に招待して頂いてのどんと焼きなど、多くの行事を楽しむことが出来ました。中でもイチゴ狩りでは、はじめ行くことを渋っておられた方が、始まるや否や真剣にイチゴを選ばれたり、「人間って欲が深いものね」と山盛りのイチゴに満面の笑顔。御餅つきでは多くのご家族様のご協力を仰ぎ、不慣れな職員のそばで手際よいご利用者様の見事な手つき。2年間まさに「家族同然」という気持ちで、日々共に過ごさせて頂き、これからもより多くの笑顔と、職員皆願っています。

よりご利用者様、ご家族様の願いに応えられ、かつ地域の皆様にもより御理解頂けるよう、努力して参りたいと思います。

所長 齊藤 尚美



居室